

# 株式会社博農

※2017年3月現在

代表者名	八木 隆博	資本金	1百万円
設立年	2012年9月3日	売上高	非公開
事業内容	生産（ニンジン、キャベツ、ダイコン）、消費者直売、加工・製造、観光・交流	経営規模	田 1.7ha、畑 2.1ha
従事者数	13人（うち女性9人。女性内訳：管理職1人、一般職2人、常勤パート6人）		
女性活躍支援	[女性に配慮して取組んだ環境整備] 施設設備関係（休憩室・屋内トイレの設置）		



## 経営概況

（株）博農は兵庫県たつの市の干拓地「成山新田」で、ニンジンやキャベツなどの野菜を栽培する農地所有適格法人である。現在の経営規模は田1.7ha、畑2.1haであり、年間生産量はニンジン120t、キャベツ60t、ダイコン50tなどと、季節野菜を43品目の栽培を行っている。販売は農協のほかスーパー、飲食店、加工業者などに出荷している。従業員数は12名で、そのうち10名が女性であり、女性10名の内訳は管理職1名、一般職2名、常勤パート6名となっている。

現在は兵庫県農業法人協会会長として、兵庫県



内で若手農家への情報発信を行っている。また、ダイコン、ニンジンなどで乾燥野菜や野菜ジュースを開発していることを受けて、代表の八木隆博氏は6次産業化を実践する「ボランティア・プランナー」に2012年に任命されており、2013年には乳酸菌を散布して栽培する季節野菜の高付加価値販売が、6次産業化・地産地消法に基づく「総合事業計画」に認定されている。

## 1. 経営者の考え

これからは少子化により人材の確保が困難になると考えられることから、従業員が子育てと仕事の両立ができる環境づくりを進め、子育てを理由に退職しなくてよい会社にするのが、経営にとって重要であると八木氏は考えている。

加えて、野菜を買って調理するのは主婦が多いことから、主婦である従業員の意見や感想を反映させることが、販売促進の強みになると考えている。実際に、5年ほど前までは生產品目がダイコン、キャベツ、ニンジン、ホウレンソウと限られていたが、現在は従業員の意見を受けて生產品目の拡大を進めた。選果の際には、女性従業員が購

買者目線から見て、買いたくない傷・形状を外すことを徹底しており、販売先からの信頼を高めることにつながっている。

また、会社の社訓である「丁寧さは経営力に繋がる＝丁寧に育て・丁寧に収穫・丁寧に出荷を実践する」ことには、きめ細やかな仕事が不可欠であり、女性の力を十分に発揮することができる経営と考えている。

## 2. 従業員のアイデアの積極的な活用

2年前より、従業員が参加して月2回の販売促進会議を行っている。会議では、従業員の日常の気づきをもとに販売戦略を練ったり、生産している野菜を使ったレシピの提案を行ったりしている。レシピ作りには「子供に好評で簡単に作れるおいしい食べ方」という主婦の目線が活かされている。提案されたレシピは商談で取引先に野菜の説明をする際に活用され、商談の成立に役立っている。

商談には女性従業員も参加しており、野菜の調理方法とともに自身の子供の感想を伝えるなど、今までにない営業スタイルで活躍している。商談におけるこれらの工夫によって販売先が増加し、売上規模は2年間で約1.5倍に増加し、経営の安定化につながった。

ほかにも、パートの女性従業員が“金美（きんび）人参”を使った「金美人参タルタルソース」を作ったことをきっかけで、新商品の開発に結び付いている。金美人参は臭みが少なく、ゆっくりと加熱することで甘みを引き出すことができるため、玉ねぎの代わりに使えるという女性従業員の知恵から商品化されたものである。現在は喫茶店などに出荷されている。

生産においては、ベビーリーフの栽培から販売までの計画策定と実践を、女性従業員が主体となって進めている。これらの生産には品種の選択や

きめ細やかな栽培管理が重要であり、女性の感性が活かされている。

## 3. 従業員のキャリア形成への取組み

従業員のキャリアアップのため、従業員が他の農地所有適格法人を視察したり、外部セミナーに参加したりすることを支援している。社内の活動としては、従業員参加の勉強会を実施している。

また「パートの人には正社員になってほしい」との考えから、パートから正社員への登用を積極的に進めている。女性1名がパートから正社員になった実績がある。

## 4. 子育てと仕事の両立支援と環境整備の取組み

子育てと仕事の両立を支援するため、保育所幼稚園・小学校低学年・高学年と、学年にあったシフト調整を行っている。また子供が急病のときに休みがとれるような勤務体制を整えている。

その他に、女性の使いやすい大きさの作業道具（小型のかま）を整備する等、女性に配慮した環境整備を行っている。

### 審査委員の声

「社員がおいしいと思う野菜作り」の考えのもと、女性従業員の意見を栽培品種選定の参考としたり、加工品開発に反映させたりしており、最近では、女性従業員が営業活動にも参画するなど、社内における女性の活躍の場が広がっている。個別事情に合わせた勤務時間を取るところは多いが、「保育所幼稚園・小学校低学年・高学年と学年にあったシフト調整」という合理的な観点が面白い。